

平成十六年度

『陸』
全国大会特集

平成十六年五月八日～九日

奈良県橿原市・明日香村

『陸』 全国大会報告記

杉山 鮎水

平成十六年度「陸」全国大会は奈良県橿原市の近鉄橿原神宮駅前、橿原ロイヤルホテルを宿舎・会場として五月八日・九日の二日間、中村主宰、町山同人会々長、山本編集長をはじめ五十八名もの善男善女の来光を得て開催された。

明日香へ出陣

最初に吟行である。皆さんにご挨拶と張り切りぶり聞かせて頂いた。

観光ガイドを飛鳥京観光協会に二名依頼しておいたので総勢六十名の軍勢で吟行にスタートした。

コースは、名所の全ては多くて回れないので、岡寺―石舞台古墳―伝飛鳥板蓋宮跡（あすかいたぶきのみやあとと

つたわる）―蘇我入鹿首塚―飛鳥寺―飛鳥川沿道―甘樫丘（あまかしのおか）と限定された。送り迎えにホテルの送迎用マイクロバス二台を出してもらえたのは有難かった。というのは、この五月八日の奈良は皐月の真夏日に当たってしまった「歩き組」などは疲れと渇きに閉口したからである（注・バスが入れない所があるのです）。このホテルを選んでよかったわけで、営業部長が橋田勉さんの知り合いでサービスが効くのだそうである。駅からも近いし、宿賃も高くなく低くなし。折しも修学旅行、団体旅行、結婚式の多いシーズンとあって、よくまあ多くの部屋が確保出来たものである。

案内のガイドさんであるが、参加者は三つの班に分かれて吟行するため、私の選んだ「歩き組」第二班は成田久郎さんという方がついてくれた。「歩き」の服装をしたおじ



全国大会

さんで、教委あがりの方と聞く。「俳句も好きで関心があります。この大会の案内担当に当って光栄でした」とのこと。とにかくこの方、とても大和、飛鳥の故事・来歴・伝説に詳しいもんだから、ついつい説明が長くなって、第二班が一番遅れただろう。でも成田さんのお陰で実によく学べて良かったと思う。

因みにガイドさんはボランティアだから無償奉仕である。語り部というわけだ。予約制だが。

岡寺へ

奈良県高市郡明日香村岡の東光山龍蓋寺（りゅうがいじ）、通称岡寺は日本最初の厄除け霊場と謳っている関西では著名な寺。西国三十三か所観音霊場第七番の札所で、開基義瀬（ぎえん）の座像は国宝に指定されており、弘法大師が中国、印度、日本の三国の土で造ったと伝えられる高さ四、五メートルもの本尊如意輪観音塑像は厄除けの巨仏として知られている。

この寺は天智天皇の御代、草壁皇子（くさかべのみこ）の生まれにいた此処岡の宮を仏教道場に改め、時の高僧義瀬僧正に下賜された。当時は宗教は極少で仏教は広く信仰を集めていた。ご本尊はなるほど立派なもので、如意輪と

あるからかの長い御耳で参詣者の願を広範に聞いて叶えて下さる、ということであろう。惜しくも尊顔に剝落が目立つ。

お遍路さんが数グループ参っていた。シャクナゲの四季には山手の道を華やかに彩っている筈であるが、一週間、十日程遅くて了っていた。会員の皆さんにお見せしたかったのに残念。

仕方なく花無き山道から本堂の素晴らしい唐破風（からはふ）の屋根を見下した。お寺自慢の「葡萄唐草文 字瓦」（ぶどうからくさもん、のきがわら）は古く（白鳳時代）美しいらしいが、眼が悪いせいが見えない。

本堂前には「龍蓋池」がある。伝説によると農民を苦しめていた悪龍を義淵の神通の法力によってこの池に封じ込め、阿字と書いた大石で蓋をしたことから龍蓋寺の名が生れたという。

岡寺を拝観し了えたら次は三班に分かれ、我々は明日香を歩くのである。

雲雀天国

すれ違う行人はいない。たまに人が通るのは観光に来た客である。ほこ天ならぬひばり天国といえる田園行であつた。

た。

さて道中、長目の蛇が出て女流陣がバニクったり、NHKの朝ドラ「あすか」のロケに使った、竹内結子が入りした茶店はここですと教えられたり、桐の花を遠望出来たり楽しい雰囲気であった。前方勢では成田さんのリードで草笛も吹いたそう。

俳人は歩かなくては駄目であろう。ハブニングに遭ったり、自然観察は楽しいものである。

暑ウオーキングにはろ酔いした頃、石舞台に着いた。第一班はもう出てくる頃だった。

成田さんの長々解説を拝聴。要旨はこの石舞台古墳の被葬者は地域の豪族で政權を握っていた蘇我馬子の墓ではないかと言われているが不明である。というのは昭和八年と十年に発掘調査があったが、既に何度も盗掘されていて歴史的証拠の品は皆無であったそうだ。この石舞台古墳は七世紀初期の築造と推定されている横穴式石室を持つ方形墳で、既に地上部の封土は流失して巨大な天井石が露出してゐるわけである。地下の納棺してあった場所を玄室、そこへ至る地上からの通路を羨道（せんどう）と称する。玄室へ入ると予想より深く広い。玄室の長さ約七・六米、幅約三・五米、高さ約四・七米で大小三十数個の花崗が使われている。巨岩は四段重ねであり、今は上の二石が地上に見

えている。玄室内は何もないがらんだものであるが、どうも足元が悪いと思ったら石だたみ、いや拳大の石ころだたみで、壁面は五月晴れが垣間見える隙間だらけだからよく風が通る。漏水を流すように両側下に小溝が切られていて、いずれも湿気を逃がすためであろう。壁面が崩れぬように石を合間にクッション代わりに詰めてしつかりさせるなど所々に工夫が凝らされているとの解説。石舞台の名は実際に舞台代わりに石の上で踊り手の女人が舞ったことがあったと噂されている。

蘇我馬子は崇峻天皇を弑逆したため、悪人であることばかり知識にあるが、随分地元へ自治、農政、それに仏教興隆に貢献した宰主であったことも知っておいてほしいとの成田さんの解説があった。因みに成田さんのご住所を書類で見たら樫原市の住人であった。

明日香地方にはその他にも変な捨て石、というのか謎の巨石が道端にあつたりする。面白いと感ずる方のために少しご紹介。亀石、酒船石、鬼のまないた、鬼の雪隠、猿石、二面石（橘寺）。「鬼の―」というのは「でかい」の代名詞であろう。

大和の考古学などに興味をお持ちの方は、

○高松塚古墳―高松塚壁画館（お隣りに）

○奈良国立文化財研究所飛鳥資料館

○奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査資料室

○明日香民俗資料館

○奈良県立万葉文化館

○奈良歴史公園館

○石神遺跡―埋蔵文化財展示室

○橿原考古学研究所附属博物館（橿原市）

で存分に勉強できる。

外にご存じのキトラ古墳、見瀬丸山古墳など古墳、遺跡、宮跡、寺跡等多すぎて書き切れないほどある。

観光ご希望の方は駅か観光案内所かホテルでガイドマップを買って携行すると良い。グルーブならボランティアガイドを申し込んでおくとよい。交通費振込前納（二週間前まで）だけでいい。お問い合わせは飛鳥京観光協会（電話0744-54-2362番）へ。

入鹿は居るか

板蓋宮跡に着いた。別に何もない。汗顔に爽風が快い。野原のようだが手入れされてある。井戸（成田さん談）との水のない石の溝に腰掛けて説明を聞く。既にバテ気味の方もいた。

スパートして飛鳥寺方面へ。

私は殿軍をつとめたので説明があっても聞けなかったが、入鹿の首塚があった。

蘇我入鹿は蝦夷（えみし）の子で豪族。皇極天皇の御代に国政を掌握したが、専横がつり、山背大兄（やましろのおおえ）王を殺したので、国政を案じた中大兄皇子（後の天智（てんじ）天皇・中臣（なかとみ、後の藤原）鎌足の連合勢に討たれた。その模様も予め話してもらったが、そのストーリーが極彩色の絵巻物で談山（たんだん）神社の内陣にて拝観できた。中大兄が剣を持ち、入鹿が討たれて首が飛んでいる絵もあって、その当時は痛快！に思った。嫌いな奴の墓になんか一寸も参りたくなかったが厭々合掌。これで祟りはあるまい。

現在周りは畠になっていて明るく展けている。墓はこういう感じの方が良いのだ。八つ墓村みたいにしておくのは幽明、つまり幽界と顕界（げんかい）お互いに良くないと墓相学で聞かされた。

ちゃんと供花が供えてあった。へえーそういう人もいるんだ。

飛鳥大仏

渴ききった写生眼で飛鳥寺へ到着。

真言宗豊山派、新西国第九番の札所という名刹である。旧伽藍は仁和（にんな）と建久の火災に遭って焼失。馬子の発願により再建された飛鳥寺は、推古天皇の命により飛鳥大仏と呼ばれる釈迦如来像は日本最古の仏像で、これが本尊である。大きく神々しい。螺髪が大きく沢山。耳朶がとても長く大きい。

役僧の説明では、この大仏は初期は露座仏であったが、二度も落雷にあつて噂ではそれこそ火焰光背を背負ったように燃えたという。仏師に頼んで二度も復元、修復したわけだ。どうりで古色蒼然としていないな、と思えたわけだ。この寺の発掘調査によれば、創建時は一塔三堂の配置、つまり塔を中心に東西と北に金堂を配し、外側に回廊をめぐらし、更に講堂（又は法堂《はつとう》）なども配するという、その後このパターンが寺院建立の基本となった魁だったことが解った。

今は狭くなったが弘法大師木像も内陣に、歌碑（吉井勇だったかな）、句碑も境内にあった。

甘樫丘へ

飛鳥川沿いに句材を求めながら、この古の川を覗き込むと叢に鳥の巣があるらしい。雛であろう、チツチツと鳴き

声が聞える。襲う者など何もいらないから小鳥には天国であろう。さあ、甘檜丘に登らなくてはならない。片肺ではつらいが、老鶯を賞でるふりをしながら休んで息継ぎをしては階に登り、何とか展望台で皆様に追いついた。

ここが奈良時代に帝が大和三山を眺めた所か。成田さんの解説が続く。見てきたような神代の恋の話まである。語り部というのであらう。熱心でよくお話しされる。余り広くもなく狭くもない頂上で東に集つたり、西に移動したりして霞む三山と夕近の大和を眺めた。

ここで成田さんは契約時刻が終了。

ホテルのバスで丘の麓から帰館。さあ三句投、五句選の苦行と楽しい懇親会が待っているのである。

大会開催

苦吟の投句をして集合。

橋田勉大会実行委員長より簡単なご挨拶と開会宣言。司会進行は全て中村仿湖事務局長である。町山直由同人会々長のご挨拶、中村和弘主宰から「吟行はその臨場感が大切。吟行句はストレートに……」との寸講があった。

以後のスケジュールの紹介。夜は別室で懇親会である。

選句五句投じて、セレモニーホールに違いない、やや大きい華やかそうな部屋に入った。

座席は円卓ごとの抽せん制でどこ（席）に誰と同席するかわからぬシステムである。初対面、他地方の句友と語つたり飲んだりもユニークで良いものではないか。因みにB卓は美人で親切な方ばかりであつて、鼻の下が延びた。

さて、グループごと、または県ごとに自己紹介、参加者紹介、またはお国自慢でも、「見えすいたおせじ」でも何でも、何かコメントをすることになった。青森勢が断然多い。民謡まで合唱されて「やられた！」と思った。以後のグループが霞んでしまうやないか。

圧巻は歌唱の先生の木村詩織さんだ。「椿姫」のアリアを唱われ、初めて聞かれた方々も絶讃されていた。この次は「トスカ」か「カルメン」をお聞きたいものだ。

初日の行事終了。



ビジターの皆さんは会の後、やれやれでは出発進行、とばかりカラオケにでも繰り出すのかと思っていたら、

「○○号室でミニ句会をします。よろしければ集まって下さい」

と触れ太鼓が回って来たのでびっくり。やっぱし俳句が大好きなんやね。それとも今日の作句が余分に余ったんかい



懇親会

な（ごめん）。

地元スタッフは、コピーに回す清記で忙しいので残念な
からお断りした。

しかし翌日、このミニ句会の句稿も載せて下さいとの編
集部からの要望があつて領諾。

ここに、一句ずつだが拝見することにしよう。

自選一句

（順不同）

如意輪の腹蔵虚し山法師	悦子
石舞台革新待てり夏の空	詩織
すかんぼや天皇陵を攻め登る	啓三
初恋のごとく飛鳥の春惜む	和歌子
明日香路の蔵元に立つ葱坊主	女良夫
革新の欲しや五月の飛行雲	眞規子
青蔦の岸壁へ砕く折り皿	桜
改新は残土の中や揚雲雀	明虫
革新の地に腕からませて昼寝かな	道子
いにしえのクレーターの跡耕やさる	浅見玲子
くもの巣も支への一つ石舞台	千代子
棚田耕し革新なるやならざるや	綾子
飛鳥観音視線いづこそ新樹光	一糸
卯の花や大和三山雲湧かす	準一

第二日 五月九日

二日目のスケジュールは浜崎素粒子氏の講演で始まる。

最近京都工芸繊維大学を退職された。ご専攻の学問ではなく、楽しい俳人小林一茶の生涯と作品のお話である。詳細は別掲。

ご講話がすむといよいよ大会のクライマックス、入選句発表と表彰である。

さて選の結果であるが、互選高点句―特別選者による特選―主宰の選と次第にグレードを上げて発表したい。

大会互選高点句

17点 新樹光剥落佛に染み入りぬ 久野 鈴一
11点 南風吹く采女の乳房ほどの山 岩下 嘉子
10点 首塚を視界に入るる代田搔き 佐藤 禎子
9点 玄室の隙間に清き初夏の天 中村 和弘
〃 古墳より使者飛び立てり天道虫 松本 道宏
8点 釈迦像の首にも皺の薄暑かな 赤石乃の子
8点 黒揚羽皇子誅殺の谿間より 井崎 佳子
〃 南吹く亀になりたる飛鳥石 石井 公子

(以下省略)

久野さん(鳥語の方です)の掲句は、人気高く断然リードのまま一位ゴールデンにはおどろき。ご本尊は速報を聞いてもニコニコ。何を賞めてもニコニコ。

次は十一人選ばれた特別選者の選と一言である。

町山直由特選

首塚を視界に入るる代田搔き 佐藤 禎子

素材が豊富で選に疲れた。

牧ひろし特選

路のびて入鹿首塚刻もどす 古屋恵美子

やはり素材豊富で写生が多かった。

若井嘉津子特選

明日香風薫り憲法どこ目指す 小木曾あや子

憲法の問題をうまく句に生かした。

泉風信子特選

夏薊腰の据れる石舞台 米川五山子

奈良に来ると緑の濃さが違う。柔らかい。歴史も古墳も

豊か。採句、「据えたる」では。

山本一糸特選

首塚を視界に入るる代田搔き 佐藤 禎子

展望が良い。

山本千代子特選

まほろばに赤き足裏の三尺寝 佐藤 禎子
察するに古代人はよく働いたのではないか。

浅沼眞規子特選

げっそりと虫喰仏や春闌ける 中村 和弘
この度はいい所（吟行地）を見せてもらいました。作者の仏さまへの思いがよく出ている句です。えっ！ 中村主宰！（の句）どうしましょう！

浅見玲子特選

板蓋宮に煙草くゆらしうまごやし 山田和歌子
初めての選者であたふたして居ります。たばこをくゆらしながら、歴史をしのんでいたのでしょうか。

松本道宏特選

甘樫丘を明日香薫風吹き通る 杉山 鈴音
三山が見える所で薫風が快い。

太奏女良夫特選

黒揚羽皇子誅殺の谿間より 井崎 佳子
掲句黒揚羽がつきすぎるほど合っている。

浜崎素粒子特選

黒揚羽皇子誅殺の谿間より 井崎 佳子
太奏氏と同感。よく詠い込まれている。

（敬称略・順不同）
ここは佐藤禎子さんが大活躍。次々と入選を得られて素

晴しい風雲児ぶりであった。

中村主宰選

〈特選〉

天 夏柑に拭ふ飛鳥の土埃 大類 準一
地 男網から女網へ茅花流しかな 山本千代子
人 鈴音さんのみ草笛を鳴らしけり 秋元 道子
句評・飛鳥の道に舞う土埃、というのではなく、夏蜜柑に残っている土埃という写生の眼のつけ所の良さと夏蜜柑を手で拭う優しい心と仕草が共感と呼ぶ。秀句。

〈入選〉

岡寺や定家かずらに風甘し 鎌田 史子
岡寺の花より葭簀うるわしく 横井 爽婆
鯉のほり大和三山見渡せり 久野 鈴一
仁王に祀る草履の藁も雀の巢 橋田 勉
新緑や蘇我氏の首は孤独なり 牧 ひろし
竹の秋明日香郵便局混める 町山 直由
天に鷗尾病葉びうと泣きにけり 若井嘉津子
雲の峰凝固せし壁出土せり 加藤 明虫

〈佳作〉

風薫る男網の御幣疲れたる 小竹ヒサ子
鬼の俎に載せたき大筍 中村 仿湖



句会風景

夏 薊腰の 据れる 石舞台 米川五山子
 三山を走る夏雲鬱乗せよ 城 直子
 たこ菜売る飛鳥の嫗うつくしき 米川五山子
 甘樫の丘に吹かるる山法師 横井 爽斐
 飛鳥路の細き棚田や夏あざみ 浪本 恵子
 お賓頭盧の胃のあたり撫で若楓 小木曾あや子
 源流に女綱を架けて桐咲けり 山本千代子
 鶺鴒の団地に森を貸したる樞原神宮 大久保八千代
 入選以上の受賞者には賞品、色紙または短冊が贈られ、
 特別選者の特選受賞者も色紙か短冊など賞を頂いた。
 これでつつがなく、でもないであろうが、無事大会の行
 事日程を終了。散会となった。

入賞者の皆様おめでとうさん。遠方からいらした方々、
 ご苦労さまでした。無事お帰り下さいますように。橋田さ
 ん、仿湖さん有難うございました。全員になり代わり御礼
 申します。お世話下さったスタッフの皆さんお疲れでした
 やろ。次回は俳句で頑張って賞品もらうようにしましょ
 う。

精算やら会計明細を締めてホッと食堂で乾杯。
 ホテルを出ると細かい小雨が降っていた。お天気ぎりぎ
 りもった。ふり返ると三山はもう霞んでいた……。